

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



# 京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



## CONTENTS

- 院長挨拶 .....①
- 虐待防止研修会を開催して .....②
- 赴任医師の紹介 .....②
- 令和元年度 地域医療教育推進事業 .....③
- 診療科紹介 .....⑤
  - 乳腺外科 脳神経外科
- がん診療における放射線治療について ⑦
- 公立南丹看護専門学校 .....⑧
- かかりつけ医を持ちましょう .....⑧
- 近隣の連携医療機関の先生方 .....⑨
  - コサカ小児科・糖尿病内科医院
  - 鈴木歯科医院
- 第5回 京都中部総合医療センター健康フォーラム .....⑩
- 病院ボランティア募集中!! .....⑩
- 研修会のお知らせ .....⑩

地域医療支援病院 臨床研修指定病院  
 救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院  
 地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関  
 地域周産期母子医療センター へき地医療拠点病院  
 京都府地域リハビリテーション支援センター  
 京都府災害拠点病院(地域災害医療センター)  
 DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター  
 エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地  
 TEL 0771-42-2510(代) FAX 0771-42-2096  
<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





2019.10

Vol.44

秋号

## 病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

## 病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して医療を行います。
2. 地域医療支援病院として地域の医療、介護や福祉等との連携を推進します。
3. 救急医療体制を充実し、いつでも安心して受けられる医療を目指します。
4. 集学的医療の提供を推進し、地域で完結できる高度ながん医療を行います。
5. チーム医療を強化し、医療の質や安全性の向上のため、全ての職員が資質の向上に努めます。
6. 公営企業としての役割を果たすため、経営の効率を高め、健全な経営に努めます。

## 患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

# 院長挨拶

## 清涼の秋に

院長 辰巳 哲也



今年も記録的な猛暑が続く夏でしたが、ようやく朝、夕に少し涼しくて爽やかな風が吹き、虫の音とともに秋の気配が少し感じられる季節となりました。近隣の水田では稲穂が美しく実り、黄金色に輝き稲刈りの風景がみられます。「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味を込めた令和の時代ですが、残念ながら最近の日本ではたびたび悲惨な事件が報道されています。7月18日には放火により罪もない多くの社員が死傷するという京都アニメーション放火事件が発生しました。あまりの凄惨さに言葉を失うとともに、強い憤りを感じられた方も多くおられると存じます。京都アニメーションには国内外から支援を申し出る連絡が多く寄せられているとのことで、これまでに果たして来られた同社の功績の大きさが窺えます。また交通関連では「あおり運転」で被害を受けられた映像がたびたび報道され、厳重な取り締まりの強化を急いでいただきたいと思います。

令和の時代になっても、日本の各地で地震や台風などによる自然災害が起こっています。最近では台風第15号により千葉県で多くの家屋の被害や電柱の倒壊・損傷が生じて停電に伴う断水が続きました。暑さの残る中、未だに困難な生活を強いられている被災された皆さまに心からのお見舞いを申し上げます。9月7日には亀岡市医師会・船井医師会合同での災害医療講演会に出席させていただきました。医師会をはじめ多くの職種の方々の防災意識の高さに感銘を受けました。一つとして同じ災害はないでしょうが、南丹医療圏での自然災害では西日本豪雨災害（平成30年7月豪雨）時にみられたようにJR嵯峨野線、国道9号線、京都縦貫道などの交通網がすべて遮断され、陸の孤島化が生じることが懸念されます。医療施設の災害対応とともに、超急性期に医師などの人的な支援体制の確保に備えることが必要かと感じています。日頃から構成市町村や京都府など行政の方々との連携・協議を強化することを意識したいと考えます。

さて、私たちの病院では毎年夏の終わりに京都府立医科大学より御依頼を受けて地域医療教育推進事業（医大GP）を行っています。京都府立医科大学の医学生、看護学生を1週間お預かりして地域医療の実情、救急医療、チーム医療などを学んでいただいています。今年で9年目を迎えましたが、毎年医療圏の開業医の先生方には診察の実習や講義に御協力いただきまして、この場を借りて厚く御礼申し上げます。今年の実習プログラムでは初めての試みとして、BPS (Biopsychosocial) アプローチによる患者診療をKJ法にて皆で考えるという企画を行いました。単身高齢者世帯が増える中、どのような社会背景があっても最適な医療を平等に受けていただくために、多職種が協力して取り組むという命題を皆で真剣に考えました。AI時代が到来しようとする中、学生の皆さんは患者さんが求めているものは高い診療技術だけではなく、患者を取り巻く社会環境を配慮した医療の提供であることを学び、地域医療に求められている医療人としての姿が少し見えたのではないかと思います。

少子超高齢化社会となる2040年を展望し、国は①地域医療構想の実現②医師・医療従事者の働き方改革の増進③実効性のある医師偏在対策の着実な推進を「三位一体」で押し進める医療改革を提言しています。南丹医療圏における医療提供体制の課題はたくさんありますが、京都中部総合医療センターは今後も地域医療支援病院としての責任と自覚を持ち、最適な医療を住民の皆様様に提供するため、職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆様の御協力と御支援を賜りますようどうか宜しくお願い致します。

皆さまの秋が爽やかで実り多きものでありますように心よりお祈りしております。



## 虐待防止研修会を開催して

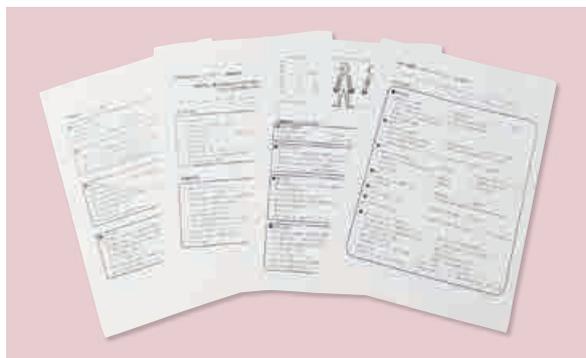
虐待防止対策委員会委員長 小児科部長 いとう ひさと 伊藤 陽里

児童虐待という不幸な案件は、その内容の悲惨さにより近年大きな社会問題となっています。警察庁少年課からの公表では、平成30年度1年間に警察が児童虐待の疑いで児童相談所に通告した子供の数は80,104人でこの10年間に13倍にも増加しています。また、摘発された児童虐待件数は1,380例で10年前の3.8倍、そのうち死亡例は36例となっています。なんの抵抗もできない幼子が、慈しみ育んでもらえるはずの保護者から、身体的あるいは心理的、性的暴力を受けたり、育児を放棄され生命的危機に瀕してしまったりする現実と直面した際、私たち医療関係者はどうするべきかという問題に対峙すべく、虐待防止対策委員会を設立し、院内虐待対応マニュアルが作成されました。

今回の研修会では、京都中部総合医療センター小児科に在職中、南丹医療圏の児童虐待に真正面から向き合い続け、このマニュアル作成に

大変尽力していただいた小田部修先生（前小児科副部長）に、委員会設立の経緯と対応マニュアルの内容について詳しく説明していただきました。

日本における虐待の状況と委員会設立までの当医療圏の児童虐待対策状況を説明していただいたのちに、当院で開始した①組織としての対応②地域との情報共有（要保護児童対策地域協議会への参加）③虐待対応マニュアルの整備について詳細に解説していただきました。特に対応マニュアルについては、児童虐待に対しては院内のできるだけ多くの職員が積極的に動いてほしい、という先生の願いが込められていて、虐待発見から報告までの流れが明瞭に整理され、職種や部門で異なるチェックリストが用意され大変使いやすいものになっています。どんな些細な情報でも院内で共有することで、虐待されている子供、そしてその両親、家族をも救いたい、という小田部先生の強い願いの詰まった大変素敵な講演でした。



## 赴任医師の紹介

麻酔科 医員 いんどう こうすけ 印藤 孝介

9月より麻酔科に赴任しております。よろしくお願いいたします。

僕は研修医の時に京都中部総合医療センター（当時は公立南丹病院）で二年間働かせていただきました。研修修了後は大学病院などいくつかの他施設で麻酔科として修練し、また戻ってくることになりました。研修医時代にお世話になったスタッフの方々、地域の皆さんに恩返しする機会をいただき大変嬉しく思います。

至らぬ点多々あるとは思いますが、皆さんに最善最良の麻酔を提供できるよう努めて参ります。





## 令和元年度 地域医療教育推進事業

かねまさ ひでとし  
臨床研修管理委員会副委員長 消化器内科部長 金政 秀俊

京都府立医科大学地域医療教育推進事業の実習を9月2日から6日までの5日間、当院で実施しました。医学科5回生12名、看護学科3回生2名が当院に来院し、病院内外で様々な実習を行いました。今回は例年行ってきた実習プログラムを一部変更し、新たなプログラムを企画・準備し実習にのぞみました。

9月2日に病院紹介、実習プログラムの説明から開始し、在宅緩和ケア、地域の救急医療についての講義があり、その後3班に分かれて様々な実習を行いました。4日午前には地域の開業医の先生方のご協力の下、開業医院12施設にそれぞれ1人から2人ずつ学生に行ってもらい見学実習を行いました。午後には各施設での実習についての報告会を開催し、学生が学んだことや感想を発表しました。その後、平田クリニックの平田正弘先生の講義ではご自身の経験をもとに医師としての大事な心構えについて、訪問看護ステーション代表の方からは地域にお

ける訪問看護について、地域住民代表の方からはコミュニケーションの重要性について、それぞれ学生にとって大変勉強になるお話を聞かせていただきました。

他にも訪問診療・訪問看護への同行、腎センター、薬剤部の見学、リハビリテーション、褥瘡/栄養サポートチーム回診、緩和ケアラウンド、心臓カテーテル検査見学、ICU/救急室、院内感染対策、救急研修などたくさんの実習を行いました。また、今年新たに内科、外科、看護部から企画したプログラムもあり、学生たちは全ての実習に積極的に参加し、普段、大学病院では経験できない多くのことを学んでくれたことと思います。最終日の午後には班ごとに実習で学んだことや考えたことを発表し、無事終了しました。

最後に、本実習にご協力いただきました多くの方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。

京都府立医科大学医学部  
医学科5回生

きのした みゆき  
木下 美幸

京都中部総合医療センターは京都府南丹医療圏における中核病院で、各診療科で高度専門的医療を実施する一方で、24時間365日の救急体制を確立しています。

京都中部総合医療センターは以前は南丹病院という名称で古くから地域住民からの信頼に支えられてきました。だからこそ、地域住民の「あそこにいけばなんとかしてくれる」という思いに応えなければならない、そこには最新の高度な医療技術や施設もさることながら、長くその地域を支えてきたという歴史を感じました。京都市内の病院に比べて医療スタッフの不足、地理的な交通の不便、著しい高齢化など様々な問題を抱えています。医師、看護師、薬剤師、その他医療スタッフが連携して目の前の課題に取り組む姿勢に、チームワークの重要性やコミュニケーションの必要性を感じました。

最後になりますが、実習にご協力くださいました、本院の関係者の皆様、患者様、そして地域の皆様に厚く御礼申し上げます。



京都府立医科大学医学部  
看護学科3回生

いのうえ れな  
井上 玲奈

9月2日から6日までの5日間を使い、京都中部総合医療センターでの研修、地域の開業医さんの見学、救急研修が行われました。地域実習ということもあり、普段私たちがいる環境とは違った医療

の現場であったり、地域に実際に住んでいらっしゃる患者さんとお話をさせていただくことを通して地域医療の本質、そこにある課題が見えたりなどを知る機会と考える機会を得ることができました。少子高齢化の時代の中で求められる医療は医療の質だけをあげていくのではなく、患者さんを目で見るなど医療者の五感をフルに活用してコミュニケーションを取っていくことが必要だと思いました。そして医療以外の課題にも目を向け、深く広い対応力が必要だとも学ぶことができました。最後になりますが5日間の貴重な経験をさせていただきましてありがとうございました。



## 糖尿病デーイベント開催のお知らせ

日時： 令和元年11月19日(火) 10:00～13:00

場所： 京都中部総合医療センター本館1F

- ◆測ってみませんか。(血糖・血管年齢)
- ◆足のケア教えます。(フットケア)
- ◆病院スタッフに相談。(お薬・食事・栄養・運動)

\*イベント内容については事前に告知なく変更となる  
可能性がありますことをご了承下さい。

<お問合せ先> 京都中部総合医療センター  
栄養科 **0771-42-2510**(代)

## 乳腺外科

*Breast Surgery*

乳腺外科部長 小谷 達也



本年4月から京都府立医科大学乳腺外科、田口哲也教授のご高配により、京都第一赤十字病院乳腺外科から当院に異動して乳腺外科部門が新設されることになりました。これまでも塚本先生、中務先生をはじめ諸先生方により外科の一部門として乳癌治療が堅実に行われてきましたので全く新しいことを始めた訳ではありません。乳癌診療は通常、内科を経ずに診断して外科治療や薬物治療になります。乳癌検診から緩和ケアまで含めるとトータル的に乳癌と関わる「乳腺科」ともいえるべき特殊性がある外科部門のため、独立した診療科として専任医師となりました。

外来診療は火曜日と金曜日で午前午後とも小谷が担当しています。長期にわたりがん治療を継続している方は病状が深刻になるため診療に時間がかかるケースもあります。病気以前の乳房スクリーニングや精査の方はできるだけ遅滞なく決まった時間から診察開始できるように留意しています。

手術日は主に月曜日としています。現時点では1人体制ですが当院外科スタッフの応援や週一

回、京都府立医科大学乳腺外科から濱岡亜紗子先生（写真右）に来ていただいておりますので十分な症例検討と手術が可能になっています。

日本の乳癌死亡数は約14,000人（2017年）と依然増加傾向にあり、女性のがん死亡の約1割です。女性全体では胃・大腸癌、肺癌を下回りますが、特に50歳以下の女性では乳癌死亡の比率が高く、働き盛りで子育て最中の女性を襲うという点が大きな問題です。

乳癌罹患数は約76,000例（2014年）、2018年の短期予測では86,000人と報告されています。私が乳癌治療に関わり始めた頃は30人に1人といわれていた生涯罹患確率が11人に1人と見積もられる増加です。（国立がん研究センターがん対策情報センター「がん登録・統計」より）

当院では比較的高齢の方が多いため治療のゴールをどこにするかケースバイケースで慎重に検討しながら診療しております。比較的若年女性の健康を守ることに関しては乳癌検診の方面で取り組んでいます。

乳癌治療は手術治療、薬物治療、放射線治療に大別する事ができます。有効な薬剤、新薬の登場により手術治療以上に薬物療法のウェイトが大きいのですが、通院治療室ではがん化学療法看護認定看護師や外来がん治療認定薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師が有機的に連携して安全かつ円滑に運営されています。また、乳房温存療法には放射線治療は必須ですが当院の患者層に理想的な寡分割照射を積極的に取り入れていただいております。

日本の乳癌検診受診率は44.9%というデータもあり情報化社会でありながら諸外国より低い水準といわれます。当院健診センターや南丹市、亀岡市のマンモグラフィー検診要精査で当院を訪れる受検者に対しては、自己検診の重要性や乳癌に関するポイントをわかりやすく解説して検診継続の動機付けを図っています。

医療の中でも特になんか診療は患者さんの幸せを大きく左右する領域だと思います。独立したばかりの乳腺外科ですが、患者さんが幸せになれる道を一人ひとりのペースに合わせて探す丁寧な診療を目指しております。

# 脳神経外科

*Neurosurgery*

脳神経外科部長 しらとみつる 白土 充



今年度より脳神経外科部長として赴任し、常勤医1名非常勤医2名の体制となりました。病院のシステムなどに慣れながらできる範囲で活動を広げていきたいと考えております。皆様には様々なことをご迷惑をおかけしますが、よろしく願いいたします。

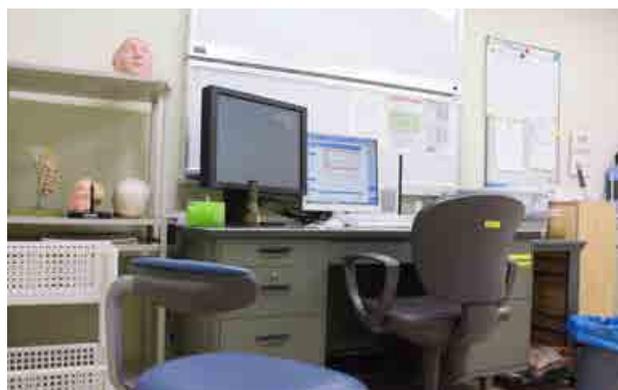
日本の脳神経外科は、高度経済成長期に、交通戦争とよばれる、交通事故の急激な増加を背景として「脳外科」が発展してきました。海外では脳神経疾患の外科治療という視点から「脳神経外科」が発展してきています。そのためか日本では脳神経外科医数のほうが脳神経内科医数より多いという経緯があるのではないのでしょうか。また末端の病院にまで脳神経外科医2、3名がおり、脳神経内科を専門とする内科医がいない状況であったため頭の病気はまず脳神経外科医が見る時代が続きました。

交通事故が一段落すると働き盛りの脳卒中が

増加、脳神経外科医は内科的治療からリハビリテーションを含む脳卒中のオールラウンダーとしての役割も担うようになりました。このころより脳神経内科医が認知され始め数も増えてきました。脳卒中治療の発展のためでしょうか、脳神経内科医の数の増加のためでしょうか、脳神経内科医が脳卒中の治療に積極的にかかわるようになりました。

最近では脳血管内治療の発展もあり、若い脳神経内科医が、カテーテル治療を担うようになってきています。将来的には循環器内科医が心臓カテーテル治療を担うようになったように脳神経内科医へシフトしていくのではと考えます。そこで日本の脳外科医は、本来の「脳神経疾患の外科治療」（脳神経外科医）に関心を向け始めました。あまり顧みられなかった脊髄末梢神経の外科治療、けいれん、パーキンソン病などの外科治療（機能的脳神経外科）など関心が集まっています。

現在、脳神経外科は他の領域と同様、専門細分化されてきており、一人で何でもできる時代ではなくなっています。私の専門は脳血管内治療ですが、脳神経外科としてのcommon diseaseの治療は心得ていると思っております。できることはします、できないことはできる人に任せます。これは脳神経外科かなと思われるものでもご紹介いただければ振り分ける能力はあると信じています。お気軽にご相談いただければと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。



# がん診療における放射線治療について

診療放射線技師主任 うえにし ただし  
上西 直志

がん診療において、放射線治療は手術や薬物療法と並ぶ重要な治療です。

ある一定量の放射線を当てると、DNAなどの重要な細胞内構造が変化し、がん細胞は死滅します。この殺細胞効果は、正常な細胞よりもがん細胞でより現れやすいため、上手に放射線を当てると、正常な臓器には強い有害事象を出すことなく、がん病巣を治療することが可能です。このように、放射線の殺細胞効果を有効活用してがん治療を提供するのが、放射線治療です。根治的治療から、緩和治療までの幅広いニーズに応じた治療が提供されています。

病変部への放射線照射は苦痛を与えることなく行うことが可能です。患者さんの状態によっては仕事をしながらの通院治療が可能で、高齢者にもやさしい、低侵襲な治療です。また、化学療法と同様に、形態・機能温存に優れており、整容性に配慮した治療が求められる場面では（乳癌や頭頸部癌など）積極的に用いられています。

## 放射線治療は ひとにやさしい がん治療です

### 放射線治療のメリット



#### 切らない治療

からだにやさしいがん治療です

#### 治療費が安い

手術や抗がん剤治療に比べて負担が軽い場合が多い

#### 通院で治療できる

生活や仕事への影響が少ない

#### からだへの負担が少ない

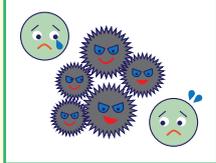
がんとその周辺のみを狙い撃ちします

放射線ががんの遺伝子を切断し、弱らせていきます。

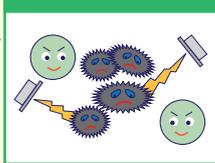
免疫細胞も、がんを攻撃しやすくなります。

放射線治療・がん免疫療法の組み合わせにより、相乗効果が期待されます。

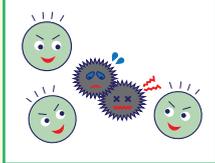
がん細胞を退治する免疫細胞は、がん細胞が大きくなると退治しきれなくなります。



放射線を照射してがん細胞の遺伝子が切断されると、がん細胞が死滅するので、免疫細胞が攻撃しやすくなります。



その結果、免疫細胞の方が優勢となり、残ったがん細胞を退治することができます。



放射線の治療応用から100年以上の時を経て、各段の進化を遂げた放射線治療は、治療効果を高め、有害事象を低減すべく、現在もなお、進化を続けています。

最新の治療では、がん精度よく集中的に放射線を当てて、周りの正常な部位（細胞）のダメージを少なくし、がん細胞を消滅させることが可能になっています。また、近年免疫療法（免疫チェックポイント阻害薬）と組み合わせた治療法も注目されており、今後がん治療への貢献がますます期待されます。

各医療機関から紹介いただく場合は、地域医療連携室で予約を受付けしています。事前診察申込書をFAXもしくは電話での予約が可能です。事前診察申込書はホームページからダウンロードできます。

その他、患者さんの紹介・検査依頼については  
京都中部総合医療センター「地域医療連携室」にお問い合わせください。

電話：0771-42-5061（直通） 平日8:30～20:00

FAX：0771-42-5071

## 令和元年度オープンキャンパスを終えて

副看護学校長 もり みずえ  
森 瑞枝

各学校が夏休みに入り、来年度の入学希望の方や看護職を希望する方にむけて8月9日にオープンキャンパスを開催し、看護学校を知っていただけるように工夫をこらしました。

### オープンキャンパスの内容

- ①多目的ホールでの学校紹介
- ②各グループに分かれ学校案内
- ③体験ブース  
血圧測定・聴診器で聞く心臓音・シーツ交換  
赤ちゃん抱っこ(リアルなお人形)・在校生による授業
- ④在校生達とグループトーク



参加して下さった方々はホームページをみて応募してくださるかがほとんどです。また高校3年生が参加者の8割以上を占め、受験の参考にしようと参加されていました。体験で人気だったのは「赤ちゃん抱っこ」です。赤ちゃんを抱っこする機会が少なく、リアルな重みのある赤ちゃんに興味が増した様子でした。

実際にシーツ交換などの技術を体験し、在校生とのトークで受験勉強の方法や看護学生の生活などを聞き、看護学校の様子が変わり楽しかったとのコメントをいただきました。

参加して下さった皆さんが来年には新入生として顔をそろえてもらえることを希望し、お見送り致しました。

## かかりつけ医を持ちましょう

### かかりつけ医とは・・・

普段の健康状態を把握してくれるもっとも身近な「主治医」のことです。

具合が悪くなったり、困ったときにはいちばんに受診できる「かかりつけ医」を持ちましょう。



総合受付①窓口  
かかりつけ医についてのご相談は 地域医療連携室 電話 0771-42-5061 (直通)  
受付時間 平日8:30~17:15

## 近隣の連携医療機関の先生方

亀岡市

### 『ふじわら小児科内科医院を引き継いで』

コサカ小児科・糖尿病内科医院

院長 こさか きたろう 小坂 喜太郎

令和元年5月から亀岡市古世で開業させていただきましたこととなりました。

もともと私は、平成2年京都府立医科大学卒業で、研修の後、府立医大大学院に入学、今でいう無給医の間、南丹病院（現 京都中部総合医療センター）小児科で当直のアルバイトをさせていただいたことがあります。大学院時代には、糖尿病に関する基礎研究を行い、1型糖尿病の子のサマーキャンプにも参加しました。大学教員時代には、低身長・甲状腺外来、また肥満外来を担当させていただきました。北部医療センターでは地域医療を、平成27年からの済生会京都府病院では、病児保育や保健所と連携し、重症心身障害児の在宅支援も行ってきました。

今後は、その経験を生かし、地域の子どもらのかかりつけ医として、発育・発達相談、予防接種、病気になる時の初期対応、慢性疾患のフォローを行っていきたいと思います。糖尿病に対しては、小児1型糖尿病だけではなく、糖尿病専門医も習得しましたので、大人の方への栄養、運動指導、メタボリック症候群の方の動脈硬化予防、2型糖尿病の方の糖尿病合併症予防を図っていきたいと思います。希望される方にはGLP-1受容体作動薬の在宅注射治療も行い、最近話題のフラッシュグルコースモニタリング（自己検査用グルコース測定器）も使い、適正な血糖コントロールを目指します。

地域に根ざした医療に尽力していく所存ですので、今後ともよろしくお願いたします。



住 所：京都府亀岡市古世町西内坪32-1ラポール2F  
駐車場：あり  
Web：https://kosaka-kids-dm.com

南丹市

### 『医療と暮らし』

鈴木歯科医院

院長 すずき たかし 鈴木 隆史

南丹市日吉町胡麻にて開院し、今年で17年目となりました。私は高校卒業まで京都市で過ごし、歯科大学に進学し一度は故郷を離れましたが卒業後は、再び京都へ戻ってきました。

実家から10分程の場所にある京都府立医科大学・歯科にて研修医として勤務し、その後も同病院の医局でお世話になりました。歯科にも入院患者さんがいつもおられ、毎日夜遅くまで病院で過ごし、1ヶ月に何度も当直していたことを記憶しています。休日はオンコールなど、勤務医をしているときは自由になる時間はあまりありませんでしたが、やりがいがあり京都府内の病院歯科で勤務医として生涯やっていきたいと考えていた事を覚えております。

身の振り方を決める時期に、開院セミナーを受講したことがきっかけで、開業を意識しはじめ、時間があるときに車で開業場所を探し始めました。地方での開業は、家族で居住し地域の方とともに歩むことも大切な要素と考え、医院に隣接した場所に住居を構え開院しました。開院後は、色々な方から温かい支援をいただき17年間過ごして行くことができました。その間、子供たちも健やかに成長し地域の皆様に見守られながら元気に南丹市の学校に通っています。

京都中部総合医療センターには、数えきれないくらいお世話になっており、感謝しかありません。歯科部長は中井道明先生から雨宮傑先生になりましたが、患者対応は今まで同様いつも丁寧で、とても安心しております。京都中部総合医療センターの先生方や職員の皆様には、これからもご指導の程よろしくお願申し上げます。



住 所：京都府南丹市日吉町胡麻的場1-1  
駐車場：あり  
Web：http://nantan-suzuki.cihp2.jp

# 第5回 京都中部総合医療センター 健康フォーラム

入場  
無料

今年で5回目となる京都中部総合医療センター健康フォーラムを開催いたします。今年には諏訪中央病院名誉院長の鎌田實先生に特別講演をおこなっていただきます。

また病院スタッフから市民の皆さまへの健康講座も予定しております。

詳細なスケジュールは決定次第、病院ホームページや院内ポスター等にてお知らせいたします。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

- 日時** 令和元年12月14日(土) 午後
- 場所** ガレリアかめおか 2階 大広間
- 特別講演** 鎌田 實 先生(諏訪中央病院名誉院長)

平成30年に開催された健康フォーラム

## 病院ボランティア募集中!!

あなたの優しい笑顔と言葉が患者さんの病気回復への大きな力になります。皆さんの時間を病院ボランティアに活かしてみませんか。

### <活動内容>

- ・病院受付や院内施設の案内
- ・集団リハビリのお手伝い
- ・入院患者さんのお話し相手
- ・花壇の整備など

お気軽に  
お問い合わせ  
ください。



### <お問い合わせ・申し込み>

京都中部総合医療センター  
電話: **0771-42-2510** (代)  
担当 鈴木 (平日9:00 ~ 17:00)

## 研修会のお知らせ

地域の医療・介護関係者や市民の皆さまへ認知症介護・感染対策・医療安全・がん診療など幅広く研修をご案内しております。詳しくは病院ホームページなどでお知らせいたします。

皆さまのご参加をお待ちしております。

### 今後の予定

- 令和元年 10月24日(木)  
認知症看護「ユマニチュード技法とは」
- 令和元年 10月26日(土)  
在宅緩和ケア～在宅での症状コントロール～
- 令和元年 11月19日(火)  
糖尿病研修会
- 令和元年 11月21日(木)  
がん診療研修会
- 令和元年 11月23日(土祝)  
PEACE(緩和ケア研修会)
- 令和元年 11月30日(土) 12月1日(日)  
ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム

### <お問い合わせ>

京都中部総合医療センター  
地域医療連携室  
電話: **0771-42-5061** (直通)

## 令和元年度 学校見学会のお知らせ

公立南丹看護専門学校では、看護師を目指す人々に看護学校について、知っていただくことを目的とし、オープンキャンパス・学校見学会を行っております。

### ●学校見学会

日時: 令和元年10月26日(土)10:00~11:00

(申込受付 令和元年10月18日(金)17時まで)

内容: 学校紹介・学校内見学・個別相談など

#### 〈申込について〉

- ①電話またはホームページで次の事項を申し込んでください。  
・氏名 ・学校名(在学or社会人) ・連絡先(TEL)
- ②同伴される保護者がおられましたら教えてください。  
(保護者の方は、体験学習には参加できません。)

受付は30分前より行います。

駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。

〒629-0196 京都府南丹市八木町南広瀬上野3番地1  
公立南丹看護専門学校

TEL 0771-42-5364 / FAX 0771-42-5422

<http://www.nantan-kango.ac.jp>



## 看護師・助産師募集(正職員・臨時職員)

◆看護師寮利用できます。(正職員)

月額10,600円(税込)

\*水道・光熱費込み

\*冷暖房・キッチン・バス・トイレ完備

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地  
京都中部総合医療センター 総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代)まで

詳しくはホームページをご覧ください。

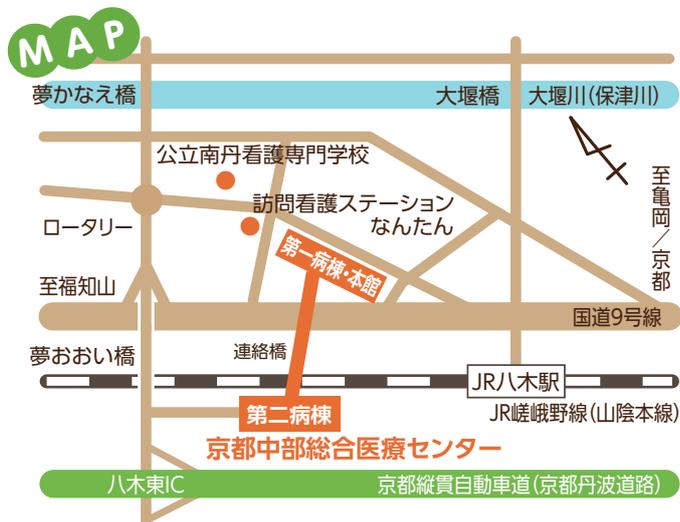
<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp/nurse/>



### 編集後記

昭和9年に改築されたJR八木駅が建て替えられます。令和3年3月末までに、八木城跡がある山と大堰橋をモチーフにした建物に変わる予定です。京都中部総合医療センターは昭和11年に南丹病院として開設され、増改築を繰り返して今の建物になりました。形を変えても、駅と病院は住民の皆様には欠かせない存在です。八木駅と同じように、これからも親しみやすい京都中部総合医療センターであり続けたいものです。

広報委員 H.M.



広報誌43巻(夏号/2019年7月発行)の近隣の連携医療機関の先生方の紹介で、うまほり西田歯科医院の住所が「亀岡市篠町篠美晴15-7」とあるのは「亀岡市篠町篠見晴15-7」の誤りです。訂正して、お詫びします。病院ホームページには修正したPDFを掲載しております。

発行: 京都中部総合医療センター広報委員会